

## コッチョペースト

コッチョペースト (Coccio pesto 伊語) は、細かく砕いた煉瓦片を骨材に用いたモルタルのことを表す固有名詞です。今から2000年ほど昔の古代ローマ時代、建造物や舗石の土台を構築するためのモルタルとして用いられたほか、舗床モザイクの表面素材にも使われていました。大理石をさいころ状に割って加工したものをテッセラ (Tessera 伊語) と呼びますが、白や黒のテッセラをコッチョペーストに埋め込むモザイクの様式をオプス・シンニヌム (Opus Signinum ラテン語) と呼びます。Opus (仕事) は、モザイク表現の様式を示す名称として Opus ~と表わします。Signinum は、Signa(ラツィオ州にある古代ローマ都市)のモルタルの意で、地名がこの様式の語源となったようです。

私は、21年前イタリア留学中にこの技法の存在を知り、自然の素材を生かした素朴で簡素な表現に魅了されました。そして、この技法をものにして作品に応用できないものかという強い欲望が沸いてきたのでした。通っていたアカデミアの先生に相談したところ、自分はわからないので専門家を教えてあげるといって紹介されたのが、当時ラヴェンナ市立職人養成専門学校の教職に就いていたコッチョペーストの研究者サント・スパルタ先生でした。先生は、大変気さくな人柄で快く授業参加を認めて下さいました。そこで私は多くの基本的な制作技法を学ぶことができました。この技法を知る人は数少なく資料も存在しないため、スパルタ先生は数々の試行錯誤を繰り返しながらオリジナルの姿に近い技法を見つけ出したと言ってアトリエの隅から数々の試作品を出してきて見せてくれました。制作法は、煉瓦片に石灰やポッツォラーナ (Pozzolana 伊語：火山灰を主成分とするケイ酸塩を含む水硬性石灰) を加えて練り合わせたモルタルを床に敷き詰めハンマーで打ち固めながら最上層にテッセラを一つ一つ丁寧に埋め込み、更に表層をハンマーで打ち固めていくものです。荒目の煉瓦片を下地層に入れ、表面に近づくに従って細目の煉瓦片を使用します。モルタルが完全に硬化してから表面を平に研削、研磨して完成に至ります。手間と労力のかかる仕事ですが丈夫で防水性があるため、床の施工法としてローマ人には大変好まれました。しかも当時は煉瓦片等のがれきは大量に身近にあったものと考えられますから産廃の再利用という経済的側面もあったのかもしれませんが。私は、帰国後もこの研究を続け、制作法に自己流の解釈を加えながら実際に建物の床に施行したり立体の作品も作ってきましたが、今回は本来のありべき姿を強く意識し、原点を見つめ直すことでこの技法の持つ意味を改めて考える機会にしました。また、古代の技法が現代の建築空間やそれらを取りまく素材や光にどう呼応するのか、一つの試みとしてこの場に仮想の床面を設置し、疑似空間に身を置きながら体感できるものを探ってみたいと思います。

2006年12月19日 工藤 晴也